

# 2023年度 須磨学園夙川中学校入学試験

## 国 語

### 第 3 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

【一】 次の「文章Ⅰ」は、東畑開人『なんでも見つかる夜に、こころだけがみつからない』の一節です。「文章Ⅱ」は、前著の書評である、宮崎智之「複雑さを取り戻す「も」の思想」の一節です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

### 【文章Ⅰ】

ア 「も」の思想。

それこそがこの本を貫いていた思想です。

僕は繰り返し繰り返し「も」を強調してきました。

現実とは不純で、複雑です。そのせいで、僕は現在地を見失う

5 し、方向喪失に陥る。そういうときに、少しでも現実を理解し、

ミチスジを見出すために懐中電灯の光を灯す。補助線を引く。

それは現実の複雑さを切り捨て、シンプルにするためではありません。白と黒に分けるのは、黒を捨て、白にしがみついため

ではない。

10 「も」の一字を堅持し続けるためです。

自分の中に複数の声があることを許す。ああでもないこうでもない

と時間をかけて考えることを続ける。それが複雑な現実を複雑に受け止めることを可能にしてくれます。そうやって、複雑な

現実ケース・バイ・ケースで折り合うためのやり方を見つける。

15 そのため、補助線は引かれるべきなのです。

もしかしたら、あなたから「ポジティブすぎる」と言われてしま

まうかもしれません。

現実というものに対して、楽観的すぎるし、希望を抱きすぎて

20 いると思われるかもしれない。

現実とはときに残酷で、絶望的です。ひどいことがたくさん起

るし、他者から悪意を向けられることは日常茶飯事。僕らが生

きている社会には根深い問題がサンセキしている。それはそうだと

思う。

25 それでも、現実とはシンプルじゃない。複雑です。

この世界にはさまざまな他者たちが生きています。あなたに悪

意を向けてくる他者もいれば、あなたの苦痛にムカンシンな他者

もいることでしょう。

だけど、それだけじゃない。そこには善意を抱いている他者

30 「も」いるはず。あなたのクキョウを見て見ぬふりできない

他者「も」いるはず。必ずどこかにはそういう他者たちが存

在している。

ウ そう信じている。

僕の仕事は、現実で傷ついたクライアントを小さな部屋で待

35 ていて、50分間だけ話をして、そして彼らが現実へと帰っていく

のを見送る仕事です。

現実には生きるに足るものである。

このポジティブな認識が、臨床というタフな仕事を支えていま

す。コンテンツに存在するその信頼が、僕にこの仕事をしぶとく続

40 けさせてきたし、これからもずっと続けていこうと思わせてくれる。

### 【文章Ⅱ】

傷ついた自分と向き合うとき、他者の傷にも思いが至る。他者

も自分と同じく傷つき、それでも懸命に生きているのだ。自分や

他者の個別性に気づくのは、人間関係や社会をシンプルに考える

のとは逆の結果をもたらす。複雑なものを、複雑なまま受け入れ

5 る態度が要求されるからである。白か黒かではなく、白「も」黒

「も」。ここで、傷つきや悲しみには「他者」が必要であるという

当たり前の事実と直面する。大海原を小舟で漂っているときには

見えなかった複雑さが現れる。

それによって単純には割り切れない、自分の複雑性を取り戻す

10 ことができる。スッキリさせるだけではなく、モヤモヤを抱えな

がら白黒はつきりさせない「も」の思想を生き、自らの身を複雑

さに晒すのは、胆力がいる行為でもある。完全に「純」なものな

ど存在しないからだ。それでも自分の悲しみと共に歩んで、他者

に想像力を膨らませていきたい。本書を読んで評者は、人生はつ

15 らいとき「も」楽しいとき「も」あると感じることができた。

注1 シンプル……単純であること。

注2 堅持……かたくなに離そうとしないこと。

注3 ケース・バイ・ケース……その場、状況に応じて対応す

ること。

注4 クライアント……依頼人、顧客。ここでは心理的な問題

を抱えて相談にきた人を指す。

## 一の設問

問一 「も」の思想」(——線部ア)とありますが、それはどのような思想ですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 シンプルに物事を理解するために、補助線を引いて複雑な現実を整理するという思想。
- 2 悩む中で生まれる複数の意見それぞれのよさを認め、まじめないことを許すという思想。
- 3 複雑な現実を理解するために、複雑なままで受け止めるための補助線を引くという思想。
- 4 問題に対して、いくつもの選択肢せんたくしを考え、比べることで解決方法を見出すという思想。
- 5 自分なりの理論を持つことで、複雑な現実に心を動かされないようにするという思想。

問二 「ポジティブすぎる」(——線部イ)とありますが、「ポジティブ」とは「物事を良いようにとらえる」という意味です。なぜそう思われてしまうのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 受け入れた現実の先には、希望にあふれた未来があることを前提としているから。
- 2 悪意や苦痛にあふれた残酷な現実に対して、楽観的な捉え方とらえをしているから。
- 3 周囲を無条件に信用することで、他者からの悪意から目をそらしているから。
- 4 社会の問題よりも、自分の心が穏やかに安定することを優先しているから。
- 5 真剣しんけんに問題に向き合わず、その場の判断で解決できると信じ切っているから。

問三 「そう信じている」(——線部ウ)とありますが、筆者はどのような背景があつてそう主張しているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 悪意を向ける者だけでない、さまざまな他者が生きているのが現実の世界であるから。
- 2 自分にとつての敵と味方はちょうど白と黒のように均等に存在しているものだから。
- 3 現実がシンプルなものであれば、悪意によって問題が発生するはずはないから。
- 4 善意も悪意も、本質的には同じものであり、単純に区別することはできないから。
- 5 どれほどの悪意が周りにあつても、ひとつでも善意があれば生きて行けるから。

問四 「その信頼」(——線部エ)とありますが、それはどのようなのですか。本文中から二〇字以内で書き抜きなさい。

問五 「大海原を小舟で漂っている」(——線部オ)とありますが、これはどのようなことを例えているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 目標や方法が分からず向かうべき方向を見失っている状態。
- 2 うまくいくはずのない方法で目的地に向かおうとしている状態。
- 3 誰の助けも求めずひとりで大きなことを成し遂げようとしている状態。
- 4 達成するには難しいことに勇気を出して挑戦しようとしている状態。
- 5 自分だけがうまくいってないのではないかと孤独こどくを感じている状態。

設問は、裏面に続きます。

問六 「胆力がある」(——線部力)とありますが、「胆力」とは「物事に動じない気力」という意味です。なぜ筆者は胆力が必要だと考えているのですか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 過去と向き合うことで、自分だけでなく、他者の分の傷も引き受けて生きていくことになるから。
- 2 悲しみを忘れて未来に生きるのではなく、あえて過去の悲しみに立ち止まることだから。
- 3 痛みや傷を切り捨てることができないために、普段よりも多くの悲しみを背負ってしまうから。
- 4 自分の生き方を単純化することで、過去の悲しみを置き去りにして進む覚悟が求められるから。
- 5 複雑になった過去の悲しみを解きほぐすことができない限り、未来へと進めない生き方になるから。

問七 次の文は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の関係性について説明したものである。「A」「B」に入る言葉をそれぞれひらがなで書きなさい。ただし、「A」「B」は対義語の関係である。

【文章Ⅰ】では、悪意を持った他者が存在する一方で、必ず善意を持った他者が存在することを書き、現実を【A】的に見ようとしているが、【文章Ⅱ】では自己と他者の中に悲しみに傷ついた自分があることを認め、自己と他者の【B】的な一面に着目している。

問八 〜〜線部a～eのカタカナを漢字で書きなさい。

二

次の文章は、栗沢まり『あの子のことは、なにも知らない』の一節です。谷岡中学校三年生の秋山美咲は間近に迫る卒業祝賀会の実行委員長であり、ここ最近転校してきた渡辺和也（渡和）が、祝賀会に非協力的なことに悩んでいます。これを読んで、後の設問に答えなさい。

交差点の赤信号で、哲太が止まっているのが見えた。

片側一車線のこの道は、美咲の知らない道だったけれど、なんとなくの見当はついた。たぶん、学区を仕切る細い川が流れているあたりだろう。

5 哲太のとなりに走りこんで、美咲は息を整えた。

「え？ 秋山さん？ あ、あの。どうしたの？ っていうか……ねぎ？」

哲太に言われて、ねぎをにぎりしめている滑稽さに気がついた。

10 「あ。ええと。お母さんに頼まれて。あ、ちゃんと会計、すんるから」

ねぎのにおいが鼻に入りこんできて、しどろもどろになっってしまった。

「ああ、あのさ。本間さんと話そうと思って。ええと、買い物ついでに」

15 哲太の持つビニール袋がカサリと音を立てた。

「わたし、渡和のこと、ちょっと話したくて」

哲太が意外そうに、でも、警戒するかのようには、美咲を見てきた。

「わたしも渡和のこと、知りたいんだ」

哲太の目が、じっと見てくる。

20 「ほら、やっぱり短い期間でも同じクラスの仲間なんだから。わたしの立場的にも、ちゃんと知っておきたいと思って。知った上で、判断を下したいんだよね」

「判断？ ……それって。委員長として和也を評価する、ってこと？」

25 「うん。まあ。そういうこと」

哲太は考えこんでいる。

「本間くん、なにか知っているなら、教えてくれないかな？」

哲太がビニール袋を持つ手をかえた。赤信号が青になる。止まっていた車が動きだした。

30 「 X 」

哲太が歩きます。思ってもいない言葉に、動きが遅れた。あわててあとを追う。

横断歩道を渡りきったところで、哲太の前にまわりこんだ。

「ねえ。 X って、どういうことよ」

35 「秋山さんには、わからないと思うよ。和也も、いまの秋山さんには知られたくないと思う」

「なんで？ そんなの、わからないじゃない」

「わかるよ。だって、秋山さんは正しいから」

意外な言葉に混乱した。「正しいから」って、意味がわからない。

40 哲太は美咲の体を迂回して歩きだした。美咲を置いて、どんどん離れていく。

なにそれ。正しいからなに？ なんで正しいのがいけないのよ。わたしはただ。

45 哲太が脇道に曲がっていくのが見えた。その大きな背中を見ていたら、得体の知れないくやしさがこみあげてきた。と同時に、哲太の背中に向かって走りだしていた。

（栗沢まり『あの子のことは、なにも知らない』による）

注1 哲太 …… 本間哲太。卒業祝賀会の実行委員。両親は

「スーパーほんま」を経営している。哲太の父の浩二は、お腹を空かせた和也のために、売れ残りの弁当を渡しており、哲太は、浩二から和也のことを「気にかけてやってほしい」と言われていた。

二の設問

問一 ~~~~~線部a~cの本文中での意味として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 滑稽さ

- 1 不思議さ
- 2 おかしさ
- 3 くだらなさ
- 4 悲しさ
- 5 気味の悪さ

b しどろもどろになって

- 1 言動がたいそう乱れて
- 2 言葉が出なくなつて
- 3 言動に思い悩んで
- 4 において困惑して
- 5 においが分からなくなつて

c 迂回

- 1 周りをまわること
- 2 見回り歩くこと
- 3 遠回りすること
- 4 方向を変えること
- 5 周りを見ること

問二 「哲太が意外そうに、でも、警戒するかのように、美咲を見てきた」(——線部ア)とありますが、なぜ哲太はこのように美咲を見たのですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ねぎを持ちながら話しかけてくる和也に驚きながらも、和也から何を言われるのかと不安に思っているから。
- 2 買い物をする美咲に感心しながらも、美咲が和也についての話題を出してきたので怒りを感じているから。
- 3 いつもは話をしない美咲に話しかけられて緊張しながらも、和也に関する話だと知り残念に思っているから。
- 4 買い物帰りに話しかけてくる美咲に困惑しながらも、自分の和也への気持ちを美咲に隠そうとしているから。
- 5 買い物帰りに話してくる美咲を不思議に思うも、美咲が和也を話題に出すことに危なっかしさを感じたから。

問三 「わたしも渡和のこと、知りたいんだ」(——線部イ)とありますが、美咲はどのようなことを考えているのですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 委員長として卒業祝賀会を成功させるためには、非協力的な和也を参加させないこともやむを得ないと思い、とにかく和也の情報だけでも把握しておくべきだということ。
- 2 委員長として卒業祝賀会を成功させるためには、非協力的な和也を無理やりにも協力させる手段として和也の情報が必要であるということ。
- 3 委員長として卒業祝賀会を成功させるためには、非協力的な和也の置かれている状況や気持ちを知り、どうしていくかを判断したいということ。
- 4 委員長として卒業祝賀会を成功させるためには、非協力的な和也の説得が必要であり、今何をしているかを聞きたいということ。
- 5 委員長として卒業祝賀会を成功させるためには、非協力的な和也の説得が必要であり、哲太と共に説得するうえで和也の情報は必要だということ。

問四 本文の  X に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。ただし本文の  X にはどちらも同じ言葉が入ります。

- 1 知りたくない
- 2 教えたくない
- 3 考えたくない
- 4 関わりたくない
- 5 分からない

問五 「だって、秋山さんは正しいから」(——線部ウ)とありますが、哲太はなぜそんな「正しい」美咲にそのように言ったのですか。七〇字以内で説明しなさい。

設問は、裏面に続きます。

問六 「得体の知れなくやしき」(——線部工)とありますが、それはどのようなくやしきですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 委員長としてやらなければいけないことをしているだけなのに、それを意味が分からない理由で否定されたことへのくやしき。
- 2 和也のことを教えてくれない理由を聞いているのに、哲太が何も説明せずその場から逃げようとすることへのくやしき。
- 3 卒業祝賀会を成功させるために和也の情報を聞きたかっただけなのに、哲太が何も教えてくれないことへのくやしき。
- 4 和也が卒業祝賀会に非協力的であることに加え、哲太は渡和のことを教えてくれず、何もできていない自分自身へのくやしき。
- 5 和也のことを哲太から聞き出さたくて全力で追いかけているのに、哲太の大きい背中にはなかなか追いつけないことへのくやしき。

問七 本文中の表現の工夫の説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 会話文の中の「……」は会話中における少しの間を読者が想像しやすいように使用されている。
- 2 登場人物の心情の動きや場面の動きが分かりやすく景色の動きで表現されている。
- 3 本文では美咲が哲太との出来事を回想する形で物語が展開されている。
- 4 読者が場面を想像しやすいように登場人物の動きが細かく書かれている。
- 5 39行目からの場面では美咲の心の中の気持ちをそのまま書くことで美咲の強い気持ちを表現している。

